「地域連携型学校防災体制等構築推進事業」における実践研究報告書

宮城県立金成支援学校

Ⅰ　学校所在地域の災害特性及び地域連携に係る現状等

栗原市の市内北部には栗駒山がそびえ、気候は、冬場の降雪量に大きな差があり、栗駒山に近い北西部は雪が多く、大崎平野に連なる南東部は雪が少なく温暖である。

岩手・宮城内陸地震では、最大震度６強を観測、日本最大級の荒砥沢（あらとざわ）ダム上流部地滑りをはじめとした未曽有の山地災害を引き起こし、地域は甚大な被害を受けた。また、東日本大震災では、唯一震度７を記録し、河川23箇所、道路49箇所、橋りょう7箇所の公共土木施設の被害。多数の建築物の倒壊・半壊を記録した。

金成支援学校は市の中央からやや北東部寄りに位置し、旧金成町の傾斜地にある。西北西に栗駒山を望み、田畑に囲まれている。通学する生徒は栗原市内に在住し、通学バスで通う生徒がほとんどである。

地震にさいなまれた経験から、防災意識の高い地域性があり、地震災害、風水害など各災害に対しての災害マニュアル、避難箇所などが充実している。しかし、広域からの通学のため、また、生徒・児童の状況から学校近隣の地域と連携した防災訓練等が充実しているとは言いがたい現状がある。

Ⅱ　取組状況

１　地域や関係機関等と連携した学校防災マニュアルの見直し及び避難訓練の実施

１）年間学校安全計画に基づいた避難訓練・簡易防災訓練（年７回の実施）

（１）危機管理研修会

・危機管理マニュアルについて確認し、疑問点や改善策についてグループごとに話し合い、共通理解を図る研修会

（２）簡易防災訓練（Ｊアラート）

・弾道ミサイルが発射されＪアラートが流れ、全員廊下に避難し、身体を低くし頭を守る。その後の情報で弾道ミサイルが日本の上空を通過したことが分かり、通常の授業の再開を想定した訓練

（３）避難訓練（地震、火災）

・震度５強程度の地震発生、それに伴い、火災が発生し、全員避難の必要があることを想定した消防署と連携した避難訓練

「避難場所及び避難経路」

※原則として全員第１避難場所に移動する。ただし、雨天時は全員第２避難場所へ移動する。

（４）不審者対応研修会

・不審者が校内に侵入した場合の対応」を基に、事故発生時における対応について、職員間の

共通理解を図る研修会

・危機管理マニュアルに沿い「不審者への対応」を実際に行う。（シミュレーション）

（５）避難訓練（火災）

・管理職不在時（教頭）に２階調理室より火災が発生し、全員避難を想定した消防署と連携した避難訓練

「避難場所及び避難経路」

※原則として全員第１避難場所に移動する。雨天時は、第３避難場所（体育館）へ避難する。

（６）簡易防災訓練（近隣火災）

・校舎西側の民家より火災発生。校舎・校地に延焼の恐れを想定した訓練。

「避難場所及び避難経路」

各学部ともその場で取れる安全確保行動を取り、校内避難場所に移動する。

（７）簡易防災訓練（地震）

・時間の予告なしで各学部ともその場で取れる安全確保行動を取る訓練

２）危機管理マニュアルの内容充実に向けた検討

危機管理研修会では、全職員で危機管理マニュアルの読み合わせを行った。初めに防災安全部長から概要を説明した後、小グループに分かれてマニュアルの疑問点や問題点などの検討を行い、その後全体で共有した。研修会で出た検討事項については、見直して改訂をした。

２　地域と連携した災害特性を共有するワークショップ等の実施

１）学校評議員会における当事業に係る活動報告及び意見聴取（２月実施）

・２月に学校評議員（４名）に本事業の活動報告を行った。

２）本校児童生徒・卒業生の通所等関係福祉施設との危機管理に関する情報共有、印刷物提供

・進路指導部と連携し、以下のアンケートを実施し回答をまとめ、本校の防災教育に生かしている。

（１）防災活動について（避難訓練の有無や回数、種類等）

（２）卒業までに身に付けてほしい防災の力

	施設企業	火災		地震		Jアラート		聴取事項	学校で卒業までに身に付けてほしいカ
		有無	回数	有無	回数	有無	回数		
1	A	有	1	有	1	無	－	・消防署の方の都合がつけば実施している。 ・震度5以上の時、施設送迎で自宅まで送る。 ・備蓄品も準備してある。 ・事業所を立ち上げるにあたって、東日本大震災の経験を生かして、「生きる」＝「食べる」ということも利用者に教えていきたいという思いで立ち上げた。	・東日本大震災の時、利用者の方は自分で防災頭巾を被り、机にもぐり、落ち付いてケガなく避難できた。 ・学校でしっかり訓練されていると思った。これからも継続してほしい。
2	B	有	1	有	1	無	－	・年1回地震と火災を合わせた訓練を行っている。 ・大規模災害の時は家庭の送迎を待つ。 ・備蓄品、ブランケット等準備している。 ・消火訓練は訓練の成果で慣れている。	・訓練を重ねることにより、非常時にも落ち着いた行動ができる力を身に付けさせてほしい。
3	C	有	2	有	2	無	－	・地震で強い揺れがあった場合は、状況により保護者の送迎を待つ（送った後一人でいれない利用者もいるため）。	・学校の訓練の継続をお願いしたい。

表１　事業所回答例

３　教職員の災害対応力を養成する校内研修等の実施

１）危機管理研修会（４月実施）

・危機管理マニュアルの内容について検討を行った。

２）先進校視察調査報告会（８月、３月　計２回　実施）

・先進校視察で得られた知見に関して、本校職員向けに報告会を行い、情報共有をした。

４　被災地訪問等を取り入れた児童生徒の防災意識を高める防災教育の実施

先進校視察調査内容

１）栃木県立今市特別支援学校

・分かりやすい合い言葉を用いた避難行動

・「おかしもち」おさない・かけない・もどらない・ちかよらないの合い言葉から自閉症の特性を考慮し、否定的な言葉を使わない「あついだんご」「おあしすに」に合い言葉を変更することで児童生徒に合い言葉が浸透した。

わかりやすい合い言葉　従来は他の学校同様、「おかしもち」→自閉症等、否定的なことを避けた合い言葉「おあしすに」に変更

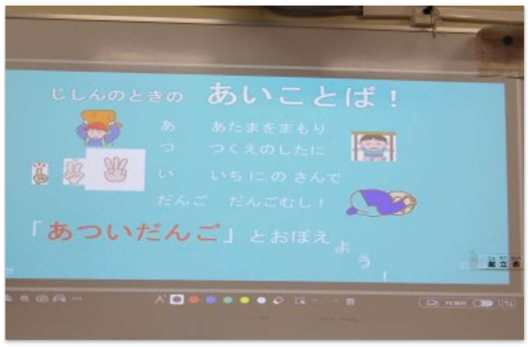

写真１　地震の時の合い言葉「あついだんご」

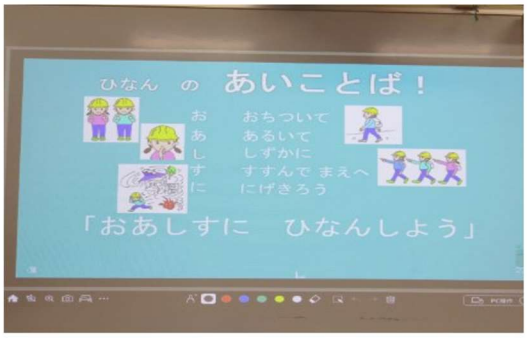

写真２　避難の時の合い言葉「おあしすに」

２）千葉県立東金特別支援学校

・あたりまえ防災隊による地域と連携した防災活動の取組

「あたりまえ防災」

被災地訪問	被災者からの言葉
・2011(平成23)年3月11日、東日本大震災が発生する。 ・震災後、生徒会役員が東北の被災地を訪問し、直接話をする。	・自分たちに何かできることはないか尋ねたところ、「防災をすることがあたりまえになるように勉強してください。そして学んだことを周りにも広めてください。」と言われる。 →「あたりまえ防災」がスタートした。

「あたりまえ防災」ソング

当時流行していた「あたりまえ体操」のメロディを使用した「あたりまえ防災」ソングを作り、全校集会などの場で踊るようになる。

歌詞の内容は、地震のときはダンゴムシのようなポーズをとって身を守ることや、逃げる際に靴を履くことの大切さを伝えるものである。

全校集会で定期的に生徒と教諭が歌って踊る姿が“当たり前”になった。また、全国の防災コンクールなどで発表する機会を得て、多くの学校から反響があった。

写真３「あたりまえ防災ソング」（YouTube より）

３）千葉県立長生特別支援学校

・防災学習のマンネリ打破のために楽しく歌って学ぶ取組のラップ防災

・地域との連携・避難訓練

◎『ラップ♪防災』

・発足　小学部２名の児童「なちゅりー」

～楽しく歌って学ぶ取組み～

♪それがあんしん　それがあんぜん♪

・全校集会などで披露。
・ＹｏｕＴｕｂｅチャンネル～紹介。
・事前学習に導入し、防災に対する意欲関心を高めた。

写真４「ラップ♪防災」

◎地域との連携・避難訓練

＜分散避難と一斉避難＞
・分散して避難
課題　→　避難後、一カ所に集まらなくて良いのか
・教職員の自家用車に乗車して避難（教師は鍵と携帯常備）
・スクールバスを利用して避難（バスは学校に常時待機）
※児童生徒は避難リュックを持って避難する。

＜屋外の非常階段設置→屋上へ避難＞
・校舎脇に非常階段を新たに設置
・避難訓練で階段途中まで実施

４）岐阜県立大垣特別支援学校

・AR・VR を用いた疑似体験型の避難訓練（浸水・地震・大雪・大雨等）

・地域・保護者と連携した防災の取組

写真６　AR ゴーグル等

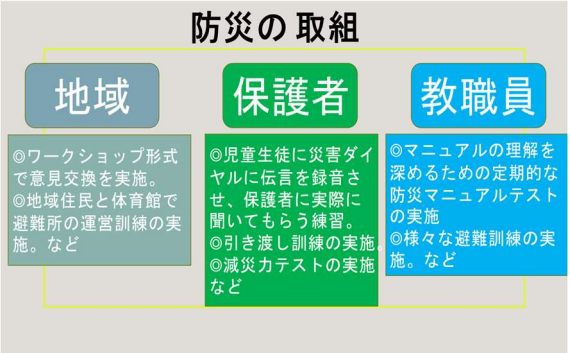

写真５　地震再現模型

写真７　AR ゴーグルを使う様子

５）高知県立山田特別支援学校

・スクールバス乗車時の避難訓練

日時：平成5年10月16日（月）8時30分～8時50分
想定：8時35分に2分以上揺れが続く震度7の地震が発生
参加者：児童生徒84名、バス運転手、乗務員、教職員*
*学級担任や寄宿舎指導員は、必要に応じて参加
時程
8時30分：バス到着（事前指導）
8時35分：発災→防御姿勢→移動→学校へ電話連絡
8時45分：訓練解除→各自登校

・防災学習単元系統表の作成

〇防災学習単元系統表や防災教育の指導案及び教材

【防災学習単元系統表】
・身に付けたい力を10項目に分け、各項目を5段階に区分
・段階ごとに指導目標と指導内容、複数の単元例の提示

【指導案】
・防災教育の指導案は、校内ネットワークで共有し、児童生徒の実態に合わせて活用できるようにしている。

Ⅲ　取組を通じた成果と課題

成果

・先進校視察調査を通して様々な知見を得ることができた。

・訓練の位置付けや実施までの流れに沿って計画通り行うことができた。

・複数の避難場所（校庭、車庫前、体育館）での避難訓練ができた。

・危機管理マニュアルの教職員による読み合わせを行うことで課題点を話し合うことができた。

・ホームページでの情報発信をすることができた。

課題点

・先進校視察調査で得られた知見を本校の防災活動に生かせるように精選する。

・地域と連携した取組について次年度検討が必要である。

Ⅳ　次年度の取組予定等

１）年間学校安全計画に基づいた地域と連携した避難訓練・簡易防災訓練等（年８回）の実施

２）学校ホームページでの活動報告及び情報提供

３）地域や PTA と連携した校舎内外の安全点検の実施

４）VR・AR を活用した擬似体験学習（地震、浸水等）

５）家庭と連携した個人用防災備蓄品の準備

６）生活単元学習等での防災・減災についての学習の充実

７）職員向けの防災に関する研修会の充実